所報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口２４
電話２－９７７２

知夫村の教育活動

知夫村教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を紹介します。

【ふるさと教育を核に据えて～学校と教委が協働で取り組むふるさと教育～】

知夫村教育委員会では、ふるさと教育推進のための取組として、「ふるさと教育担当者会」を実施しています。「学校担当者（ふるさと教育担当者）と村教委担当者（派遣指導主事・派遣社会教育主事・魅力化コーディネーター）が、ふるさと教育の成果と課題、今後の実践等、進捗状況について協議し、取組の充実を図る」ことが会の目的です。中でも、生活科及び総合的な学習の時間の学習をふるさと教育の要と捉え、地域を素材とした探究的な学習の充実を目指しています。

平成三十年度から、知夫小中学校では、小中一貫校としての利点を生かし、九年間の学びがより系統的・発展的なものとなるように、それまでのカリキュラムを見直し、整理を行いました。（小中の九年間を四期に分けて段階的に取り組むこと、小中別々に行っていた発表会を小中合同で行うこと、子供と地域の大人が協働で地域課題の解決に向かう仕組みを作ること、等）

諸計画も徐々に整備されてきましたが、身につけたい力の明確化については、学校の課題としてありました。そこで、教育委員会が主体となり、仮の「つけたい力一覧表」を作成しました。今後は、この一覧表をたたき台として、つけたい力をより明確にした単元計画づくりを行うこと、学校や地域の実態に合ったものになるよう改善を図ることについて、担当者会を軸に取り組んでいきたいと思います。そして、魅力ある地域資源を生かした学習活動を確かな学力の育成へとつなげていきたいです。

（文責　派遣指導主事　福山）

【公民館昼休みミニイベント】

知夫村の社会教育行政では、自立した活力ある地域づくり・生きがいをもった人づくりを推進しています。特に公民館活動を工夫、充実し、学びを楽しみ、活躍できる場を創出することに力を入れています。それを通して、島の大人が学びの機会を自発的に創り出し、学びを通してつながるよう取り組んでいます。また、地域と学校が連携・協働しながら、子供たちとともに勉強やスポーツ・文化活動等を定期的・継続的に取り組むことにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりに力を入れています。

取組の一つとして、今年度から学校の昼休み時間を利用した「昼休みミニイベント」を行っています。このイベントは、公民館が知夫小中学校の建物内にあることをいかそうという発想から企画されました。

これまでに「紙飛行機をとばそう」「竹とんぼであそぼう」というイベントを行いました。また、地域の方から声があがり、「ボードゲームをしよう」というイベントも行いました。

学校の昼休み（三十分程度）という短い時間の活動ですが、子供・地域の方・教職員など、関わっている人たち全員が自然と笑顔となり盛り上がる姿をたくさん見ることができています。

今後は、子供たちがしたいことの声を拾いながら、主体的にこのイベントに関わってくださる地域の方の発掘にも力を注いでいきたいと思います。

（文責　派遣社会教育主事　広兼）

幼小連携・接続事業

去る十月十二日の幼児教育推進シンポジウムで、五箇小学校とごか保育園が二年間の『幼小連携・接続の取り組み』について成果を発表しました。

令和二年度にスタートした時点では、小学校と保育園ともに「連携・接続」の重要性は認識しているものの、どこから手をつけてよいか、といった状態でした。毎年、交流活動は行っているものの、交流のねらいが不明瞭であったり、互いの教育についての理解が不足していたりと課題も多くありました。

そこで、交流前の打ち合わせや話し合いを重ね、事業の目的である、「幼児教育で育んだ資質能力を生かし、学校教育に円滑に移行できるようにする」ために、連携は交流中心に（子供同士の交流、先生同士の交流）、接続は教育活動（教育課程）をつなげることとしました。

五箇地区の子供の実態から、「人とかかわる中で、コミュニケーションの力（聞く・話す・動く）を育成する」を幼小接続カリキュラムの柱としました。

そして、合同研修会において、幼小連携の必要性を学び、幼児教育と学校教育の違いを共通理解しました。その中で、子供の育ちは連続していて、八歳頃（小学二年生頃）までは発達の特性から園児と同じ幼児期にあたること、子供の立場に立って、その連続性や一貫性を保つことが必要であることなどを確認しました。

子供の交流では事前の話し合いを十分行い、全体のねらい、年長児、小学生それぞれのねらいを立てて活動しました。活動後には振り返り、評価を行いました。これらの時間をもつことにより、互いの教育について理解が深まりました。お互いが、知る努力、伝える努力をしたことが、つながりを生み、信頼関係ができました。

コロナ禍の中、交流はいつもより、難しかったようですが、小学校、保育園が知恵を絞り、子供たちを中心においた活動ができたように思います。子供の育ちをつなぐことは大人のつながりであることなど学びの多い発表でした。

「つながることの先に見えてきたもの」を「信頼関係」とし、発表を締めくくりました。

この信頼関係の輪が広がることを期待します。

（文責　若林）